

日本史研究推進委員会

共同研究「神奈川の地域史研究とその教材化—歴史総合・日本史探究をどう教えるか—」経過報告

神奈川総合産業高校 高橋 俊介

2021年度の活動は、これまで本会が取り組んできた神奈川の地域史研究とその教材化をさらに深めるものになりました。まず、「歴史総合」に向けては、世界史推進委員会と3回の合同例会を実施し、「近代化」「大衆化」「グローバル化」について共同研究を進めました。次に、神奈川県立歴史博物館とは博物館資料の教材化や博学連携を進めることができました。8月の日本史サマーセミナーは新型コロナウイルス感染拡大により中止になりましたが、12月に日本史セミナーとして開催することができました。ここでは、月例会と日本史セミナーを中心に活動をご報告いたします。また、コロナ禍の状況下で、会場を提供していただいた各校の皆様には厚く御礼申し上げます。

1 月例会 月／会場（内容） ●は世界史研究推進委員会との合同、▲は神奈川県立歴史博物館との合同

4月／神奈川総合産業（年間計画の検討）、5月／横浜商業（横浜商業高校に残る学校資料と保存）、●6月／湘南（歴史総合で国民国家をどう教えるか、歴史総合における「国民国家」概念の検討）、▲7月／希望ヶ丘（校外学習で深める地域史学習、地名・聞き書き・景観に探る中世武士本拠）、●9月／湘南（「歴史総合」と朝鮮の近代を結ぶ、「歴史総合」の開始を見据えて考える「大衆化の時代と私たち」）、10月／県立歴史博物館（特別展見学、歴史探究学習と博学連携に関する実践報告）、11月／鎌倉学園（鎌倉歴史文化交流館の見学、竹崎季長と一緒に安達泰盛邸を訪問しよう）、●12月／湘南（「グローバル化と私たち」を地域史から考えてみる、グローバル化論の射程）、1月／神奈川総合産業（定時制高校における「主体的・対話的で深い」歴史学習に向けて）、▲3月／県立歴史博物館（神奈川県鳥瞰図を通して考える昭和初期）で実施しました。

2 日本史セミナー

12月24日、25日の2日間で横浜翠嵐高校を会場に「歴史総合をどう教えるか」というテーマで実施しました（詳細は別稿参照）。2日とも午前は高校生を対象に大学教員が講義を、初日の午後は高校教員が教員向けの報告を行い、2日目午後はシンポジウムを行いました。シンポジウムでは教科書の執筆者でもある成田龍一氏（日本女子大学）、大串潤児氏（信州大学）に加え、本会の矢野慎一氏（横浜翠嵐）がパネリストとなり、初めての参加者も「歴史総合」の理念や教科書に対する理解を深め、「どう教えるか」という課題に対して高校教員からの不安や期待も含んだ意見交換がなされました。

3 その他

2年ぶりに夏と冬に巡検を実施することができました。夏季巡検は山北方面で実施しました（詳細は別稿参照）。酒匂川の治水事業の文命堤から始まり、駒澤大学名誉教授の久保田昌希氏にも参加していただき、般若院（河村氏菩提寺）や河村城址などを見学しました。冬季巡検は町田方面で実施しました。自由民権資料館（松崎学芸員の解説）、村野常右衛門生家、小野路宿里山交流館、青柳寺、泰巖歴史美術館（中村学芸員の解説）などを見学しました。特に、町田の民権家による自由民権運動が現在の県境を越えた武相地域への広がりを見せる上で重要な存在であったことを学びました。

最後に、本会は新採用から中堅教員や再任用教員まで最新の歴史研究やそれを踏まえた教材研究に関心のある人たちが集まっています。こちらでの研修と研究成果は、県内の先生方に紹介するとともに、多くの高校生に還元することを目指しています。活動に興味を持たれた方は、神奈川総合産業高校の高橋までご連絡ください。若手からベテランまで関係なくお待ちしております。